

日本初の女性報道写真家



笹本恒子

さ さ さ も と つ ね こ

100歳展

— 生誕の地・品川での開催 —

会期

2015

10/16(金) ▶ 11/11(水)

10:00 ~ 18:00 (但し、期間中の金曜日は 20:00 まで開催)

休館日: 毎週木曜日

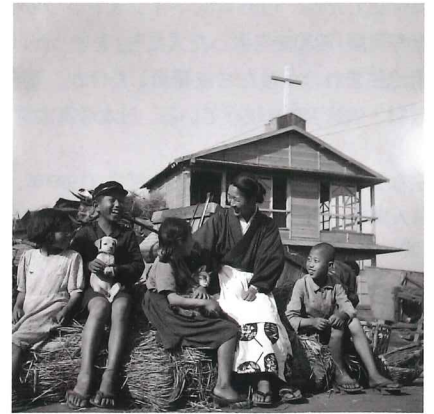
2014年9月1日 100歳の誕生日に自宅にて (撮影: 東京新聞)



新藤兼人(映画監督) 2002(平成14)年



広島・原爆ドーム(孟蘭盆会) 1953(昭和28)年



「蟻の街のマリア」北原怜子(社会奉仕家) 1953(昭和28)年

観覧料: 一般500円 高校生以下、障害者、70歳以上の方は無料

会場

美術館

品川区 品川文化振興事業団

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-2 大崎ニューシティ2号館2階 TEL.03-3495-4040

交通アクセス: JR線・りんかい線大崎駅下車(北改札口~東口)徒歩2分

東急バス(大井町駅-渋谷駅行)大崎駅下車徒歩2分

主催 品川区/公益財団法人品川文化振興事業団/東京新聞/共同通信社

後援 公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会

協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

協力 M&M Color



笹本恒子 100歳展

笹本恒子氏は、日本最初の女性報道写真家といわれ、現在も精力的に取材・執筆活動を続けています。彼女の活動は各種メディアにも取り上げられ、報道分野はもとよりそのライフスタイルにも注目が集まっています。

笹本氏は1914年、東京府荏原郡大崎町大字上大崎字長者丸（現・品川区上大崎）生まれ。画家を志していたことからアルバイトで東京日日新聞（現・毎日新聞）のカットを担当したことがきっかけで、写真協会に誘われて報道写真家となり、日独伊三国同盟の婦人祝賀会やヒトラーユーゲント来日、日米学生会議の記録など、日米開戦前夜の貴重な写真を撮影しました。戦後フリーとなり、安保闘争などの事件や岡本太郎（画家）、大宅壮一（評論家）、加藤シヅエ（政治家・社会運動家）といった著名人を取材。その後、一時現場を離れますが、開催された展覧会を機に再び写真家として完全復帰し、宇野千代（小説家）や三岸節子（画家）などの明治生まれの女性の撮影をライフワークとしました。

本展覧会では、昨年100歳を迎えた笹本氏が長年にわたる取材で撮りためた写真を展示。太平洋戦争へと向かう日本の姿、そして敗戦、戦後復興から平成に至る日本の歩みと、女性の社会的地位が定まっていなかった時代にカメラを通して奮闘してきた笹本氏の軌跡を振り返ります。



60年安保自然成立の瞬間 1960(昭和35)年6月19日0時



加藤シヅエ(政治家・社会運動家) 1956(昭和31)年



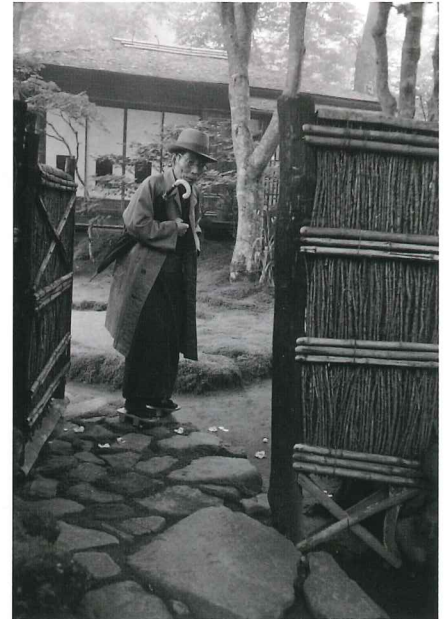
銀座4丁目とP.X. 1946(昭和21)年

笹本恒子氏プロフィール

1914年東京品川生まれ。1940年に財団法人写真協会に入り、日本初の女性報道写真家となる。1941年に退職するまで、国内の報道写真を撮影。1945年に千葉新聞入社、1946年の婦人民主新聞嘱託を経て、1947年にフリーとなり新聞、雑誌等に写真、記事を提供。1950年、現在の公益社団法人日本写真家協会の創立会員となる。同年に「生きたニユーロック写真展」を日本橋丸善で開催。その後国内で起きた出来事や事件を撮り雑誌に掲載。活動を一時休止したが、1985年にドイフォトプラザ渋谷で開催した写真展「昭和史を彩った人たち」をきっかけに活動再開。明治生まれの女性たちを撮影したほか、現在に至るまで取材・執筆活動を続けている。日本写真家協会名誉会員。



ヒトラーユーゲント来日 大阪・文楽座 1940(昭和15)年



室生犀星(詩人・作家) 1961(昭和36)年

主な受賞歴：1996年東京女性財団賞（1997年、財団法人東京女性財団）、第16回ダイヤモンドレディ賞（2001年、社団法人東京ファッション協会）、第45回吉川英治文化賞（2011年、財団法人吉川英治国民文化振興会）、日本写真協会功労賞（2011年、公益社団法人日本写真協会）、第43回ベストドレッサー賞特別賞（2014年、社団法人日本メンズファッション協会）



生誕の地・品川での
開催に寄せて

私は百年前に、品川区で生まれました。品川区と云っても、ずっと端の方、目黒駅から、エビスへの道、無人踏切の傍らです。

現在でも其処は踏切番が不在です。

当時其処は夜になると狸がたくさん出てきて、多分汽車の落していった油をなめに来るのだと祖母が申しました。そして朝になると狸の死骸が二、三転がっていることがあったそうです。その家が私が三歳ごろ目黒三田地区に移築しました。

私の家の墓地は品川区なので目黒に越してからも度々お墓参りに大崎に来ました。お寺は百段の坂を上ったところの妙光寺です。昔は先祖の法事がある度に、笹巻のお寿司や有名店の和菓子のお土産が出ました。お寺に行く道には町工場が多く、油の臭いといっぱいでした。それが今では大きな会社や工場が立ち並び、見違えるほどの町になりました。現在ではお墓参りの帰りにどこで食事をしようかと考えるのも楽しみです。

そしてこんな大きな美術館までできたとは驚きです。その美術館で一〇〇年の展覧会をしていただけるということはたいへん光栄でございます。ありがとうございます。

二〇一五年六月一日

笹本恒子